

東洋建設の歩み

海から陸へ、そして海外・建築へと活躍のフィールドを広げてきた東洋建設の歩みをご紹介します。

第1期 1929～1945 会社の設立と請負事業への進出

1929年7月3日、兵庫県鳴尾村(現 西宮市)の沖合いを埋め立て、一大工業団地を造成することを目的に、山下汽船(現(株)商船三井)と南満州鉄道の共同出資により、阪神築港株式会社として設立されました。鳴尾埋立事業は1933年10月に着工しましたが、日中戦争の勃発により中断を余儀なくされました。



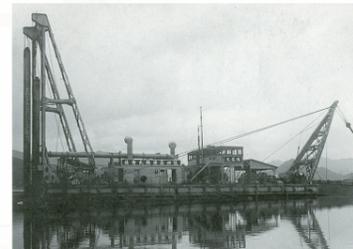
初代社長 山下亀三郎



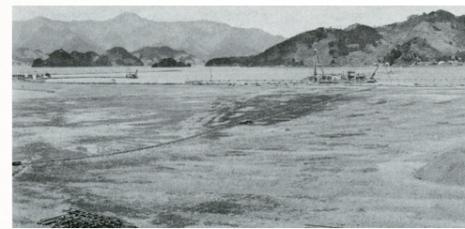
初事業となる鳴尾工事起工式での記念写真



当時の埋立計画図



当社初の電動ポンプ式浚渫船「鳴尾丸」



佐伯航空隊敷地埋立工事(大分県)

第2期 1945～1972 浚渫・埋立ブームの到来

終戦後は厳しい経営状況が続きましたが、1960年頃から港湾整備予算が増加し、いわゆる「埋立・浚渫ブーム」が到来しました。当社も岡山県水島港など、我が国の高度成長の基盤となる臨海工業地帯の埋立事業に数多く参画しました。



水島臨海工業地帯造成工事(岡山県)



鹿島港浚渫埋立工事(茨城県)



現在の鳴尾浜(兵庫県)

鳴尾埋立事業は1967年に再開、1982年に土地の販売が完了しました。

第3期 1973～1999 建築・海外への進出

マリコンとしての確固たる地位を築いた当社は、1972年に海外、1976年に建築事業に進出しました。1995年1月17日に発生した阪神大震災では、当社は神戸港の復旧に中心的な役割を果たしました。



ガステックス・ターミナル建設工事(マレーシア)



ロワジュールホテル那覇(沖縄県)



六甲アイランド緊急岸壁工事(兵庫県)

第4期 2000～2017 創立90周年へ

21世紀に入り、安全・安心や国際競争力強化などの要請が高まっています。東洋建設は、これからも高い技術力を発揮し、国内外で多様化する社会基盤整備に貢献し続けることで、創立90周年はもとより、100周年に向けてさらなる飛躍を目指してまいります。



羽田空港D滑走路増設(東京都)



柴山港外防波堤(兵庫県)



ニソン製油所海上取排水設備(ベトナム)



モンバサ港コンテナターミナル1期(ケニア)



第二東名高速道路静岡東工区(静岡県)



宇部興産中央病院(山口県)



日本海西部地区魚礁据付(島根県)



ビー・ブラウンエスクラップ新栃木工場(栃木県)



熊本大学臨床研究棟(熊本県)



紀の川市新庁舎(和歌山県)